

2023年春の伝道礼拝
第1回目 5月14日

わたしは自分の 羊を探す

エゼキエル書

第34章11～16, 31節

マタイによる福音書 第9章35～38節

小海 基

エゼキエルはエレミヤと同世代 の預言者

今日は3年ぶりの伝道礼拝です。普段の日曜日にはイザヤ書の連続講解説教を行っていますが今日はエゼキエル書を読みました。こちらにも預言書ですが、イザヤ書は新約に412箇所も引用されているのに対して、エゼキエル書は3分の1の141箇所しか引用されていませんので対照的です。エゼキエルは時代で言えばイザヤが活躍した時代より百数十年あとの預言者で、エレミヤと同世代の預言者です。エルサレム神殿の

中枢を担うツアドク家(新約ではサドカイ派)の祭司一家に生まれ、紀元前597年の第1回目のバビロン捕囚で南ユダ王国のヨヤキム王やダニエル書のダニエルたちと一緒に「捕囚民」になりました。

いてリアリテイがなく、気がおかしくなっているのではと思われたり、故郷が壊される不安を感じさせるものでした。

捕囚民といっても、貴族階級、エリート祭司の一人としてバビロニアに連れてこられた人です。バビロニアに連れてこられて5年目にバビロニアのケバル川のほとりで

全48章のうち前半は支配階級 を糾弾、後半は励ましの内容

主の幻を見て30歳で預言者となった人です。恐らくバビロニアの地で妻を娶り、24章で妻を失い、捕囚地でバビロニアによつて南ユダ王国エルサレムが滅ぼされることを知ることになった預言者です。

今の時代、そういうことはないと思われませんが、古い時代のユダヤ教ではエゼキエル書を30歳以下の人々に読むことを禁じた時代があつたくらいです。エゼキエル書は全48章ですが、その前半24章までは祭司、支配階級を糾弾する激しい預言の言葉に満ちています。

3年ぶりに再開された伝道礼拝のテーマを「羊」「羊飼」としました。ここに写真のコピーを持つてきましたが、これは多湿な日本と違って砂漠地帯のシリアなので色彩が鮮明なまま発見されました。相当なお金持ちの家と思われませんが、とても不思議な造りで、中央に大きな風呂桶があつたり、壁には羊や羊飼いの絵が描かれており、礼拝も行われていたことがあとで分かります。

旧約聖書のほかの預言者以上に神様から幻を見せられて預言させられた人でした。とりわけ奇妙なビジュアルで見せられます。変な生き物や墮落したエルサレム神殿の内側の幻……といった具合です。この人は気がふれてしまっているのではないかと、読む人を不安にさせるほどです。

逆にバビロニアによつてエルサレム崩壊を知らされた後、後半の25章から48章までは国を失つて絶望にうちひしがれている捕囚の民を励まし、回復する神様のご計画を示し、本当の羊飼いのもとに戻りなさいと励ます内容になっていきます。今日読んだ34章はそういった章なのです。

聖書の神様の愛を示すシンボルは羊飼いです。今写真で紹介したのは、キリスト教最古の礼拝堂として1934年(昭和9年)に発掘されたデューラ・エウロポス(紀元3世紀)の壁画です。当時はキリスト教の「迫害期」でしたが、「良い羊飼」として神様が私たちを導いてくださるといふ信仰が描かれています。「十字架」は新約聖書以降のシンボルです。

救いの場面もありますが、どれも、度外れたスケールで描かれて

聖書に見る「羊」「羊飼」

さて、今では和辻哲郎の「風土」論は必ずしも当てはまらないと言う学者も増えつつありますが、

それでも聖書の信仰の中心に、農耕文化の日本人とは異なる遊牧民の文化が根底にあります。

ニユースでは、アメリカのバイデン大統領の移民政策をトランプ前大統領が激しく批判している。ニユースが流れていました。トランプ時代は、メキシコとの国境に巨大な壁を立てて移民の流入を露骨に阻止しようとしていました。

トランプは「国境の無い国は国ではない。我々は国境を取り戻すのだ」と吠えているといえます。この感覚は実は聖書にある遊牧民とは違う文化です。最近は何もありませんが、日本の家は塀を作つて囲う傾向にあります。日本の移民政策も未だ閉じています。頑なに閉じて囲うのは農耕文化の影響です。日本は国境や縄張りに拘り、外に生きる人々をないがしろにする傾向があります。日本の反移民政策もその線上にありますし、いま進められつつある入管法の改悪も同様のことが言えます。

エゼキエル書の再発見・再評価

エゼキエルはそもそも、ツァドク家というエルサレム神殿の大祭司を生み出してきたエリート祭司階級の出身ですから、祭司たちへの手厳しい批判を34章で語りま

で来られている。神様は、ここにおられて羊飼いとなって下さっている。神様は我々の元に、「移動」して導いてくださる遊牧の羊飼いなのだと、エゼキエルを引用してヨセフスは語りかけるのです。絶望にうちひしがれ、奴隷になってしまった捕囚の民を回復されるのだという神の計画をエゼキエルは語るのです。

エゼキエル書は、新約聖書ではイザヤ書の3分の1も引用されないのですが、実はイエス様が亡くなって40年後、紀元70年のユダヤ戦争でローマ帝国によってエルサレムが再び崩落した時、ユダヤ人によって再発見・再評価されるようになりま

エゼキエルの預言の中で一番有名な預言の部分は、今日読みました34章の3章あとの37章、「枯れた骨の復活」という小見出しの部分に出てくる「枯れた骨がカタカタ音を立てて、復活していく」という幻です。カンボジアのクメール・ルージュによる大虐殺をテーマにした映画「キリングフィールド」でも、エゼキエルのこの預言が引用されていました。

神は、幻をもってエゼキエルに預言を示して、国を失いホームレスとなってしまった国民を励まされました。神様は帰るめどのない捕囚の民と共にバビロニア

聖霊の息が吹き込まれることによつて枯れた骨が甦る

エゼキエル書は、新約聖書ではイザヤ書の3分の1も引用されないのですが、実はイエス様が亡くなって40年後、紀元70年のユダヤ戦争でローマ帝国によってエルサレムが再び崩落した時、ユダヤ人によって再発見・再評価されるようになりま

エゼキエルの預言の中で一番有名な預言の部分は、今日読みました34章の3章あとの37章、「枯れた骨の復活」という小見出しの部分に出てくる「枯れた骨がカタカタ音を立てて、復活していく」という幻です。カンボジアのクメール・ルージュによる大虐殺をテーマにした映画「キリングフィールド」でも、エゼキエルのこの預言が引用されていました。

神は、幻をもってエゼキエルに預言を示して、国を失いホームレスとなってしまった国民を励まされました。神様は帰るめどのない捕囚の民と共にバビロニア

聖霊の息が吹き込まれることによつて枯れた骨が甦る

エゼキエル書は、新約聖書ではイザヤ書の3分の1も引用されないのですが、実はイエス様が亡くなって40年後、紀元70年のユダヤ戦争でローマ帝国によってエルサレムが再び崩落した時、ユダヤ人によって再発見・再評価されるようになりま

エゼキエルの預言の中で一番有名な預言の部分は、今日読みました34章の3章あとの37章、「枯れた骨の復活」という小見出しの部分に出てくる「枯れた骨がカタカタ音を立てて、復活していく」という幻です。カンボジアのクメール・ルージュによる大虐殺をテーマにした映画「キリングフィールド」でも、エゼキエルのこの預言が引用されていました。

神は、幻をもってエゼキエルに預言を示して、国を失いホームレスとなってしまった国民を励まされました。神様は帰るめどのない捕囚の民と共にバビロニア

聖霊の息が吹き込まれることによつて枯れた骨が甦る

であつても、私たちの神様が羊飼いであるということは、死という絶望、大虐殺という絶望を超えて枯れた骨に神様が息を吹き込まれる聖霊によつて甦っていくのです。そういう姿を見ると、神様が羊飼いであるというのは、大虐殺という絶望を超えるのです。そして、この幻、このエゼキエルの預言に立ち上がられた捕囚の民が、シリアのキュロス王が、バビロニアを滅ぼし、「解放令」を出したのに応えて、もう一度、故郷エルサレムを70年間の空白を破つて再建していくのです。そうした預言の言葉がエゼキエル書に書かれているのです。そして旧約、新約を通してみると、これらの預言が成就していくことを私たち、確認できるわけです。私達に伝えられている神の言葉、イエス様が誠の羊飼いなのだとはそういうことなのです。私達は本当の羊飼いに目を向けて、自分たちの人生を組み立てていきたいと思ふのです。(出席33名、Zoom8件。文責・編集委員会。要約・市川義和)